



SVPインサイトVol.46

植物肉

～国内市場の現状と将来展望～

本レポートは、2024年2月発行の注目市場分析レポートに基づき作成しております。
また、上記レポートは当社会員向けに提供しております。

I. 市場の定義

植物肉とは、肉の味や食感を植物由来の原材料で再現した代替食品で、「代替肉」とも呼ばれている。健康志向や環境への配慮から近年注目を集めている。大豆をはじめ、小麦、エンドウマメ、ソラマメなどが原材料として使用されるが、日本では大豆の使用が中心である。本レポートでは、こうした植物性原料を用いた大豆ミートやグルテンミート(小麦を加工)、およびそれらを主原料とするハンバーグやカレー、ソーセージなどの最終製品も調査、家庭用・業務用の双方を対象とした。

II. 市場動向

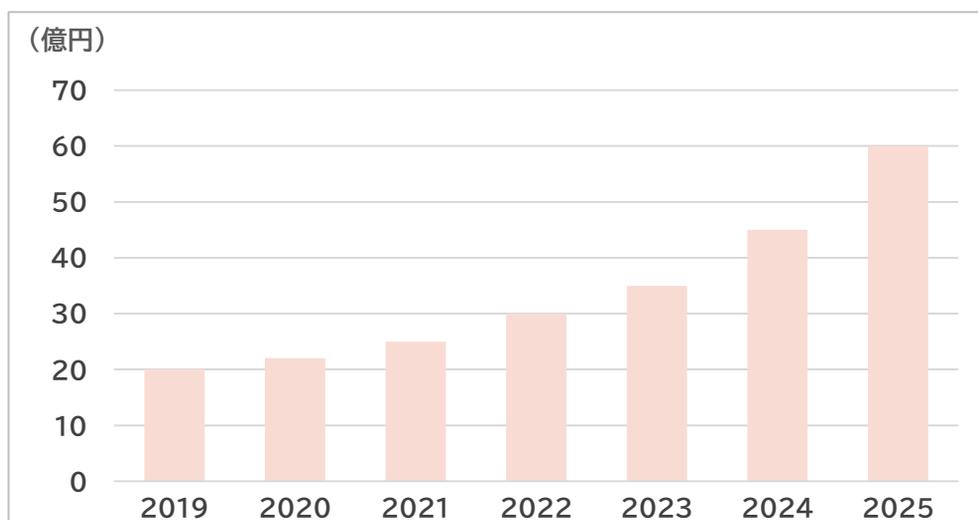
植物肉は長年にわたって存在してきたが、かつては主にヴィーガンやベジタリアン向けで、食感や味の再現度が低く一般消費者には浸透しなかった。しかし近年、技術進化により本物の肉に近い食感・風味の製品が登場し、フレキシタリアン※層を含む一般層の需要が拡大。2019年以降、スーパーマーケットやファストフードでも取り扱いが広がった。背景には健康志向や環境意識の高まりがある。さらに、農林水産省によるフードテック推進、2022年のJAS規格制定、日本大豆ミート協会の設立など制度的な整備も進み、企業の参入・製品開発が加速。今後も開発技術の進展に加え、健康志向や環境意識の高まりといった社会的背景から、市場の拡大が見込まれる。

※フレキシタリアン…肉も食べるが菜食を食生活の中心にする準菜食主義者

III. 市場規模・予測

植物肉市場は2022年に約30億円規模であったが、2025年には60億円に倍増する見通しである。近年の製品ラインナップの多様化や販路拡大が成長を後押ししており、スーパーマーケットや飲食店での取り扱いも増加している。市場環境も整備されつつあるが、食品業界全体から見れば依然として小規模にとどまっており、今後の成長には、食感や風味のさらなる改善、多様なメニューへの応用といった製品力の強化が不可欠となる。

植物肉・市場規模推移

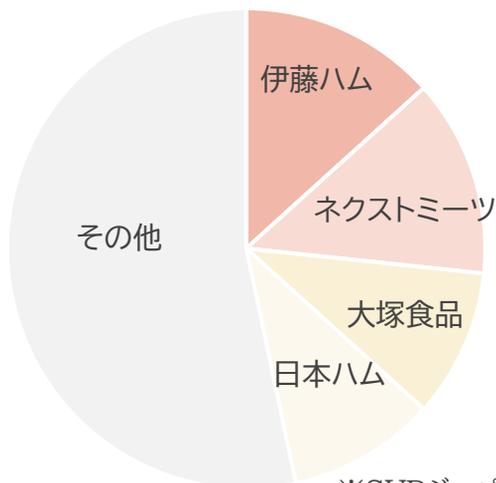


※SVPジャパン推定

IV. マーケットシェア

市場では、伊藤ハムや日本ハムといった大手食肉加工メーカーに加え、ネクストミーツのような植物肉専門のベンチャー企業も存在感を示し、それぞれが市場をリードしている。植物肉は従来の加工肉と競合する側面を持つが、各社はいずれも新たな市場として前向きに展開を進めている。大塚食品などもこの動きに加わっており、今後の展開が注目される。

植物肉・マーケットシェア(2022年・金額ベース)



※SVPジャパン調べ

V. 参入企業の動向

植物肉市場の広がりとともに、各社が自社の強みを生かした商品開発に乗り出している。伊藤ハムは食肉加工の技術を活用し、「まるでお肉！」シリーズで揚げ物を中心に展開、日本ハムは女性を主なターゲットに「NatuMeat(ナチュミート)」を開発した。ネクストミーツは、2020年に設立されたフードテックのベンチャーで、焼肉用代替肉などユニークな商品を展開し、国内外で販路を拡大。大塚食品は健康志向の高まりを背景に「ゼロミート」を発売し、業務用にも進出している。また、DAIZは独自製法による高品質な植物肉原料を提供し、他社製品にも多く採用されている。マルコメやプリマハム、さらにイオンや良品計画など小売各社も商品化を進めており、外食チェーンでも植物肉メニューが浸透しつつある。企業の多様なアプローチが、市場の拡大を後押ししている。

VI. 業界構造

植物肉業界は、大豆製品メーカー、食肉加工メーカー、植物肉専門ベンチャーに大別される。原料供給から製品開発・販売まで、複数レイヤーで構成。流通経路では大手のスーパーマーケットが主チャネル、外食ではハンバーガーなどのファストフードチェーンなどが植物肉を使用した商品を販売している。



1分でわかる

SVP会員制 ビジネス情報サービス



1. ビジネス情報収集における環境の変化

環境の変化が激しく、将来の予測が非常に困難な時代に入

変化①

社会環境の変化



- ✓ 戦争の勃発
- ✓ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行
- ✓ 気候変動



変化②

ビジネス環境の
変化



- ✓ テクノロジーの進化
- ✓ グローバル化
- ✓ 新世代の台頭
- ✓ 破壊的企業の躍進



組織的な課題に直面



2.企業が直面している3つの課題

これまで以上に、迅速で的確な情報収集・分析能力が求められています

1 幅広いビジネス 情報のアクセス

幅広い事象に関して、
スピーディーにアクセスできる
環境の整備



3 成長が期待される 新市場の動向把握

事業機会の可能性がある全ての
市場や企業動向を認識する
ケイパビリティの有無



2 質の高い情報の獲得 (重要領域での質の担保)

信頼できる上質な
ビジネス情報を収集できる
環境の構築



3.当社サービスが提供する価値

ビジネス情報に関する皆さまの課題を当社が解決いたします！

SVP会員サービス



解決① クイックリサーチ

I.

膨大なビジネス公開情報へアクセスし、スピーディーに最適な情報を提供

解決② プロジェクトリサーチ

II.

カスタム調査を通じて、質の高いビジネス情報と分析アウトプットを提供

解決③ SVPナレッジ

III.

当社が定義する、メガトレンドや注目市場の動向予測レポートを提供

年間契約で3つのサービスをご提供します



I. クイックリサーチ

活用シーン

- ・日々のリサーチ作業をアウトソースして、分析や戦略立案など付加価値業務に注力したい。
- ・ニーズに合ったビジネス情報を、スピーディーにわかりやすくまとめて提供して欲しい。

特徴

- ✓幅広いビジネス公開情報の活用
- ✓プロのリサーチャーによるニーズ把握と最大2時間の調査
- ✓わかりやすくまとめたレポートでご報告

納期 最短2日営業日以内

III. SVPナレッジ

活用シーン

- ・メガトレンドを中心とした、将来、事業に影響を与える環境要素は何か知りたい。
- ・①Z世代、②サステナビリティ、③テクノロジー、④新興国を含む海外市場、⑤破壊的企業の動向を把握したい。

内容

- ✓SVPメールマガジン
- ✓SVPインサイト
- ✓SVP注目市場分析
- ✓SVPトレンド調査

配信頻度 月1回以上

II. プロジェクトリサーチ

活用シーン

- ・公開情報では公表されていない、市場や業界、企業、消費者の情報収集がしたい。
- ・自社の事業領域に関する、質が高く、ニーズに即した情報を入手して、ビジネスに即活用したい。

特徴

- ✓広範なカスタム調査・分析
- ✓デスクリサーチ
- ✓ヒアリング調査
- ✓Webアンケート調査

納期 調査内容に応じて決定

5.導入実績



年間調査実施数
約15,000件



商用DBシステム利用
20システム



国内外企業財務情報
4,000万社以上



SVPネットワーク
世界40カ国の広がり

日本の売上高トップ100社中7割の企業でのご利用実績 導入企業600社以上





—SVP JAPANのサービスについて—

2営業日以内に調査結果をご報告

クイックリサーチ

[詳しくはこちら](#)

カスタムメイドのリサーチサービス

プロジェクトリサーチ

[詳しくはこちら](#)



—各種お問い合わせ—

資料ダウンロード

[こちらをクリック](#)



お問い合わせ

[こちらをクリック](#)



s'il vous plaît
SVP JAPAN
株式会社SVPジャパン

まずはお電話でもお気軽にお問い合わせください。
TEL : 03-3249-0771

